

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2275100499		
法人名	有限会社 長者の森		
事業所名	グループホーム 長者の森(こもれび一丁目、こもれび二丁目合同)		
所在地	静岡県焼津市三ヶ名558-4		
自己評価作成日	平成26年10月23日	評価結果市町村受理日	平成26年12月17日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kai.gokensaku.jp/22/index.php?action=kouhvu_detail_2013_022_kami=true&jiyosyoCd=2275100499-008&PrefCd=22&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社第三者評価機構		
所在地	静岡県葵区材木町8番地1 柴山ビル1F-A		
訪問調査日	平成26年11月5日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

入居者様一人ひとりに目を向け、いかに『個』のニーズに近づけられるかを念頭に置いています。自分が又は大切な家族がここで暮らしたいと思えるよう、さまざまな場面でのご本人の選択肢を優先します。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

国道150号線からほど近い利便性の高い立地に多様な介護保険事業所を配するほか保育園も併設する事業所です。本年度から「想いを形に」とした個別の取組みが開始されました。担当者が利用者の生活歴や嗜好を参考にし、外出を企画しています。例えばファーストフードに興味のある人にハンバーガーを味わってもらったり、九州に離れた家族に会うために職員が同行して「死ぬ前に会えるなんて嬉しい」との声が聞かれています。また静岡市の猫カフェにも出向き、動物好きの利用者が触れ合いの時間を楽しむ機会もありました。「従来やりたかった事ができた」という自信が、事業所の活気につながっています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	フロア内に理念を掲示し、毎月あるミーティング開始時に唱和しスタッフの意識を高めています。 新入社員が入社後は教育係のスタッフが一年かけ指導をしています。	法人理念が廊下や共用空間に掲示され、毎月のミーティングでは開始前に職員全員で唱和し、意識を高めています。3年前から事業所独自の理念を毎年テーマを替えて作成しており、本年度は「個別化」「殺風景を減らす」ことに取り組んでいます。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	自治会へ加入し地域の清掃や防災訓練などに参加しています。回覧板を隣の家に届ける時には入居者様と一緒に届けに行きます。	本年度から地域で開催される清掃活動に、年4回参加するようになりました。職員と利用者がその都度交替で出向き「地域で暮らす高齢者と接することで笑顔が増えた」との効果もありました。ボランティアの慰問がおこなわれ、詳細はブログにもアップされています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	震災以来、津波対策で屋上を一時避難場所として開放しています。認知症サポーター養成講座を開催しています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	二ヶ月に一度開催しています。市の福祉課の職員、地域包括職員、自治会副会長、民生委員、入居者様ご家族や入居者様ご本人が参加され、施設の近況報告や取組などを伝え意見交換を行っております。	自治会長をはじめ、近隣住民や元職員も参加しています。退職後の職員からは事業を知っているからこそ、第三者的な視点をもった進言があります。事業所の取組みを説明し、参加者から事業内容に沿った意見が提案されています。	運営推進会議への、さらなる参加の輪が広がることを期待いたします。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	困ったことや分からないことを焼津市長寿福祉課の担当の方に電話連絡をし助言をいただいています。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	社内に身体拘束廃止推進委員会があります。委員会が主体となり社内研修を開催します。施設内の事例発表や身体拘束にあたる可能性の行為やその前兆などを具体的に発信し、より深い知識や意識に結びつけております。	2ヶ月に1回委員会が開催され、身体拘束廃止について話し合う機会をもっています。身体拘束ゼロ宣言をもとにスピーチロックについても代替の言葉を遣う工夫がみられます。エレベータはロックしていますが、ユニット間の移動は自由にできます。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	同上。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者やスタッフは外部研修に多く参加し学ぶ機会がある。スタッフ間でその必要性を教えています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	管理者が契約時には時間をかけ施設の概要や内容を伝え、十分に納得された上で契約を交わしています。解約時にもその入居者様やご家族様の置かれている状況を配慮し円滑に行っています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	年に2回家族会を開催し意見交換する機会を設けており要望などを汲み取ります。毎月おたよりを発行し家族に日頃の様子を伝える取り組みもしています。	主には家族会で事業所の方針を伝え、「どんなことでも話してもらいたい」ということを常に説明しています。管理者が運営状況をブログで発信したり、LINEで家族から要望を募ることでリアルタイムな連携につながっています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月ミーティングを行い意見交換をしています。年度末に個人面談がありスタッフの意見や提案を聞く機会を設けています。	個人面談を実施し、職員から意見を聞いています。職員は年間目標を作成し、昨年ではできなかったことができるようにというような意欲もあります。各種の委員会活動も活発で、本年度から排泄ケア向上委員会が設置されました。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	経営者と年度末にスタッフ一人ひとりが個人面談をし、今年度特に力を入れて業務で実践したことを話してもらいます。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	社内研修を行い、新しい知識や技術の再確認を行っています。現場でも新人スタッフに中堅スタッフが一年をかけて細かく指導をしケアの統一を図っています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	3か月に一度開催される市内グループホーム連絡会に参加し情報交換をしています。いい所は取り入れたり参考にしています。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	アセスメントをし会話から本人の気持ちを受け止め行動パターンの観察からニーズを汲み取っています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	施設に対する要望には積極的に傾聴し本人の様子について報告を密にすることで信頼関係を構築しています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人と家族の思いを実現するためには何をすれば良いのかを考え安心して生活できるよう努めています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	スタッフと会話をしながら家事を一緒に行う共同生活の中で信頼関係を深めています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族の協力が必要な場合はスタッフからも相談し本人の思いを実現する手段を一緒に考えています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	外出や外泊は自由にできます。家族の宿泊の対応もしています。 ご希望があれば遠方の帰省にも対応しています。	自宅で利用していた訪問マッサージを入居後においても続けられ、施術がおこなわれています。 墓参が気になっている利用者に職員が付き添うこともあります。看護師が同行することで米寿の同窓会への参加が叶った例もあります。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	世話好きの入居者様が多く入居者様個々の横の繋がりで関係性を保っております。おせっかいが高じてケンカになる場合はスタッフが間に入りトラブルを避けるようにしています。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居後に自施設の他のサービスを利用して頂いています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ケアプランの話合いには本人も参加してもらおうようにしているが直接希望を聞いても言ってくれない時には、日常会話からヒントを得るようにしています。表情や仕草から思いを汲み取ることも大切にしています。	家族から生活歴を聞き取り「その人らしい暮らしができるように」とのアセスメントがおこなわれ、例えば「園芸の趣味ができなくなっても関係する本を用意する」といった周辺支援も定着しています。会話が困難な場合は、職員が表情をみて読み取るようにしています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	生活歴は家族から得られる情報が多いですが、本人しか知らないことも多いため昔話などをして頂きその中から把握しています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりに合わせた生活を安心して頂けるように否定せずに寄り添い優しい声かけをしています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	半年に一度の担当者会議では、本人、家族、看護師、入所者担当スタッフ、計画作成者のメンバー構成で入居者様ご家族様のニーズ確認を行っています。プラン作成後はカンファレンスにてスタッフに報告し共有を図っています。	職員1名が2人を担当する方法で担当者会議やモニタリング、アセスメントへの参画があります。担当者会議には利用者の同席もあり、計画を積み重ねて説明のうえ同意を得ています。インフォーマルサポートの役割も、計画書に記載されています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の生活に変化があれば介護記録に残し、申し送りや申し送りノートでスタッフ間の情報を共有しています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	買い物や外出したいという突然の要望にも対応できるように努力しています。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の清掃活動に入居者、スタッフ共に参加し地域の方にも入居者の気持ちを理解して頂けるように努めています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ほとんどの入居者様が施設提携医を主治医にしており、毎月の往診の他電話での相談も随時行っています。	従来からのかかりつけ医を継続している利用者もいますが協力医は往診や夜間対応もできているため、主治医を変更する事が増えています。週5日、非常勤の看護師がいるため、家族だけでなく職員も安心できています。提携医以外の受診は家族にお願いしており、結果は家族から口頭で職員に伝達されています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週4～5日看護師の勤務があり医療面での管理、相談には対応しています。また急変時や夜間のオンコールにも対応している為ご家族様も安心されています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院中は面会に行ったり家族などから様子を伺い状態の把握に努めています。退院後もドクターからの指示のもと施設内の生活が継続できるよう連携を密に取っております。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	看取りのマニュアルを作成し対応しています。状態の悪化が見られた時は、早期にご家族・ご本人と今後のケアや方針について話し合いをしています。	本年度は看取りが2件あり、社内研修を反映させて対応しています。また日をおかず「デスクカンファレンス」を開き、辛かったことや後悔することを吐露することで次の機会に反映することができます。看取りの同意書に基づき加算体制を整え、ケアプラン上にも位置付けています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時に冷静に対応できるように社内研修にて勉強会を行っています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に避難訓練を行っていますが夜間の訓練は現状では行っていません。地域自治会と合同の非難訓練を行い定期的にシミュレーションをしています。	年2回消防訓練のほか津波訓練を実施し、さらに地域の防災訓練にも参加しています。建物屋上を津波の避難場所として24時間開放し、訓練には230名前後の近隣住民が集まりました。子どもからお年寄りまで実際に屋上に上ってみることで、新たな課題も見えてきました。	地域の人が、屋上まで実際に上ることで防災意識も高まるため、今後も継続されることを期待します。

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	プライバシーや羞恥心に配慮した声掛けや誘導を心掛けて取り組んでいます。常に自分に置き換え自分がこんな施設なら入りたいと思えるような雰囲気作りを意識しています。	汚物を新聞紙にくるんでエコバックを使うことで、皆の目に晒されないようにしたり、排泄時の誘導では耳元で囁くようにしています。また、Web上での掲載は予め本人家族に同意を得て、承諾が得られなかった場合には加工して個人が特定されないようにしています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入居者に応じて二者択一にしてみたり意思決定ができない方には表情から汲み取るなど個人のペースに合わせて支援を行っています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者にとって押し付けや強制にならないように本人の意向を聞きながら支援しています。アセスメントの際には以前での家での生活をここでも継続してもらえるように十分説明しています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	好きな洋服を着て頂き、重ね着などが目立つ場合はアドバイスしています。髪はブラシで整え寝癖を直します。洗顔後、化粧水、乳液をつける方もいます。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	厨房より副菜が大皿で上がってくる為、本人の希望の量を聞きながら盛り付けをしています。ご飯も自分で食べたい分量で本人に聞きながら盛り付けております。年に3回のバイキングと月2回のセレクトメニューもあります。	共用空間に置かれた冷蔵庫では、自分の食材を管理して好きな時に食することができます。本年度から晩酌の習慣を取入れ、わずかな飲酒であつても「その人らしい」生活を維持することで、熟睡や交友関係の広がりといったQOL向上に功奏しています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養士により栄養バランスを考えて献立が立てられています。各人の一日の食事量や水分量を把握しています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後それぞれの状態に合わせた口腔ケアを行っています。義歯は週2回就寝時に除菌をしています。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	24時間シートを利用してそれぞれの排泄パターンを把握しており、失敗を未然に防げる様にさり気ない誘導を行っています。	必要に応じて声掛け誘導することで成功の回数を増やしており、またたとえ失敗した場合でも、メンタルにおける職員フォローがあります。トイレの便座にはカバーが掛けられ、壁には絵画が飾られて「施設のような感じを与えない」という考え方が此処でも実践されています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分摂取を促し毎日のリハビリ運動を工夫しています。腸伝道の働きが低下し便秘気味の入居者様は主治医と相談し便秘薬でコントロールしています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	体調を見ながら週2回を目安に入浴するようにしています。週2回大浴場での入浴もしています。	身体機能が低下しても、浴槽用車いすを使用することで残存機能の活用が図られています。利用者ごとに湯を張り替えることはありませんが、かけ流しにより新鮮な湯が供給されています。週2回は併設するデイサービスの大浴場も利用できる、のびのびと入浴できるので利用者にも好評です。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	それぞれの睡眠状況を把握し日中でも自由に休まれるようにしています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個別に処方薬のファイルを作成しスタッフそれぞれが確認できるようにしています。変更や追加があった場合は申し送りシートに記載し情報の共有や経過観察、服薬確認も行っています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	好きなこと、興味あることをして楽しく過ごして頂けるようにしています。散歩、習字、園芸、ハーモニカ演奏では入居者、スタッフ共に心が安らぎます。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ゴミ出しや回覧板を届けるなど生活のなかでの外出や施設の周りを散歩しています。買い物や外食、行ってみたい所など計画し家族と一緒に外出する機会を作っています。	神社の祭典では餅まきがおこなわれ、利用者の参加も恒例となりました。多世代の人々が集うなか、近隣の人が職員の制服を確認して餅を分けてくれたという、ほほえましいエピソードもあります。図書館やお笑いライブといった目新しい外出支援もあります。	

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	多額ではありませんが自己管理されている入居者様もいます。施設に移動パン屋さん came 来た時や外の自販機で飲み物を自分で購入しています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	暑中見舞いを家族に書きました。お返事がきた入居者もいます。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	畳の間にこたつを設置してゆっくりTVを観て頂けるようにしました。 フロアには観葉植物を置き、蛍光灯はやめ、ペンダントランプに変更しました。	藤製の家具が配され、ペンダントランプで照らされることと相まって暖色系のほんのりとした空気が醸し出されています。「家庭のように」というコンセプトにもとづき、テーブルや洗面台には職員が持ち込んだ生花が飾られ、休憩する場所も確保されています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	独りになりたい時は自室に戻ることが多いです。共用スペースではTVやDVDをみて自由に過ごして頂けるようになっています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	今まで使用していた家具や寝具、思い出の品、アルバムなどを持ってきて頂き、居心地よく居室で過ごせるようにしています。 殺風景にならないように写真や習字、以前作った手芸品などで居室を飾っています。	使い慣れた家具の持込みが奨励されています。家族の協力もあって在宅時から継続している趣味の作品もあり、また創作レクリエーションで作成した習字、誕生会の写真が置かれています。布団が好きな利用者は、畳の上に布団を敷く生活を続けることができます。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	できることは自分でできるようにさりげなく支援しています。車椅子で自走する入居者の場合は移乗する時にブレーキが掛かっているか等の安全には十分注意を払っています。フロア内での掲示物は入居者の目線で掲示しています。生活リハビリで残存機能を保っています。		